



◇速報◇

苫小牧山岳会チロロ小屋の

今後について

平成11年4月に当時の日高町千栄にある旧千栄中学校跡地に現存する教職員住宅の一棟を借用し、苫小牧山岳会「チロロ小屋」として使用が開始された。その後、日高町と日高門別町の合併に至る前の平成18年2月に建物の無償譲渡が日高町にて決定され、苫小牧山岳会会長藤田理所有として譲渡契約を交わした。その後は、チロロ小屋運営委員会によって管理、運営がされ、新年の新春登山・春山合宿の中継基地や記念登山会など多くの会行事に利用されてきた。また、小屋補修、周辺の草刈りなどは会員自らが行ってきた。しかし、小屋の老朽化と一昨年（H28）の大雨により隣の生活館のほぼ半分が沙流川の氾濫で削り取られ、解体された。また、国道274号の千呂露橋が決壊し、日勝峠の道路やチロロ林道を含む周辺の林道が通行止めとなり、チロロ小屋の行事利用を控えてきた。

そのため平成28年度の利用件数はほんの数件にとどまることになった。

平成28年10月、日高町との第一回の話し合いを行うに当たり、同年9月の理事会（チロロ小屋運営委員会）での提起により町と話し合いの場を設けることとなり、その後、日高町より要望書の依頼があり、苫小牧山岳会として老朽化したチロロ小屋を3年以内に返却したい旨の要望書を提出している。平成29年11月日高町が小屋の譲渡を承諾。平成30年1月末現在、日高町への譲渡書に関する書類（日高町作成）は事務局に届いていないが、日高町との譲渡の話は確実なものとして苫小牧山岳会でも行程表を作成し、それに沿って準備を進めていくことになった。

◇チロロ小屋運営委員会からお願ひ◇

チロロ小屋に持ち込まれた個人所有のものについては、その個人が責任を持って平成30年3月までに回収していただけるようお願いいたします。

《チロロ小屋について町との話し合い》

◇第一回目話し合

平成28年10月17日

合併後初めて日高町との会合がもたれた。

出席者 苫山（藤田前会長、林会長、高山副会長）

日高（下村課長ほか1名）

苫山…平成11年より利用させて頂いているが、建物の傷みや会員の高齢化に依る利用頻度の減少などが将来の懸念材料と成っている。

平成18年の住宅無償譲渡に於いて、疑義等が発生した場合は、その都度協議と有るが、町としての対応（疑義）範囲を伺いたい。

日高…持ち帰り協議する。

◇平成29年1月

日高町より要望書を提出する様に指示あり。

苫山…要望書の内容は諸事情によりチロロ小屋の3年以内の返却（2017.3.24付）

日高…回答書（内容抜粋）

・要望の件に付いては検討の結果、町としては返却を受けることは出来ません。

・返却の際は現状復帰の上、返還いただきます。

※日高町回答書の現状復帰は、原状復帰が正しい。

（2017.3.29付）

◇第二回目話し合

平成29年7月12日

出席者 苫山（藤田前会長、林会長、高山副会長）

日高（柴田課長ほか地域経済課3名）

苫山（内容抜粋）

・回答書の内容は受け入れられない。

・平成18年無償譲渡の際に原状復帰が条件なら受けなかった。

日高…持ち帰り、上司に相談する。

平成29年11月（電話による回答）

・日高町側で譲渡書を作成し、苫山へ郵送するとの説明を得る。（今期中の譲渡…年度終了の3月迄）※苫山チロロ小屋↓譲渡書↓日高町

平成30年1月

日高町担当者へ進捗状況確認の電話を入れる。

平成30年1月

チロロ小屋返却準備のための行程表作成に入る。

※行程表は別表を参照してください。

《月例山行》

◆冬山研修（徳舜瞥山）



寒気が居座っている厳冬の伊達市大滝に位置する徳舜瞥山で今期の冬山研修が行われた。このところの冬山研修は、雪洞と氷壁を交互に行っている。今期は雪洞研修と雪上でのピッケル・アイゼンの研修を行った。

新雪の中を先行者のトレースに沿って最初は牧場の中を進む。途中から樹林帯に入ると樹氷が美しい。1000m付近ではエゾマツのモンスター（樹氷）が大きく発達している。その先でスキーをデポし、ザックの確保、アイゼンの装着の仕方などの研修を行い登攀開始。さすが厳冬期でピッケルを持つ手の指先が冷たく、持ち替えながら歩行。途中で耐風姿勢なども行う。山頂から下山後、1000m付近で非常事態の訓練。疲労で動けなくなった一人を低体温症から守るため、まず風をよけて休ませるためモンスターの木立の中に出来た空間を利用し



た練習を行う。10分ほどで待避場所を確保できた。研修場所からの下山は、極上のパウダーを楽しみ、下山後、大滝の無料温泉で汗を流す。泉温43度は熱かった。（詳細は例会報告で）

《例会予定》アイビープラザ…6時半開始

◆2月4日（日）

2/17〜18スキーツアー（ニセコ）最終打ち合わせ

◆3月4日（日）

3/4多峰古峰山&646mスノーシューツアー打ち合わせ（例会打ち合わせ最終）

※山岳遭難保険受け付け開始

◆3月4日（日）

※山岳遭難保険（4/1〜有効）受付最終

《事業予定》

◆2月17日〜18日スキーツアー（ニセコ）担当…田中勝、新井孝

◆3月4日多峰古峰山&646mスノーシューツアー 担当…新井素、新井孝

《お知らせとお願い》

我々の例会を行っているアイビープラザの催し「ひなまつり展」に昨年も文化団体の一員として参加しましたが、今年も会のPRも兼ねて参加予定です。内容は昨年同様、写真、短歌、絵画などを予定しています。会員の皆さんもふるって参加と協力をお願いします。

搬入日は、2月23日、開催期間は、2/24（午後）〜3/4（午前） 担当…泉田

《インク・ノット》

◆磁北線の角度が一定でない？

地球は大きな磁石？なぜ地球は大きな磁石なのか。地球の中心である核に鉄が多く含まれ、高温で液化化している鉄が目には見えないがゆっくりと対流を起こして、その鉄が一定方向に正しく並んでN、S極ができ、強弱を繰り返している。今は、北極がS極、南極がN極であるが、約77万年前には、その逆であった証拠が最近新聞でも話題になった地層、チバニアン（千葉時代）で見られる。これが世界に今年認められた。そんな大変化ではないが、我々が使っている磁石の指す方向は不変ではなく、磁北の方向は日時を追って少しずつ変化している。

日変化は、変化量も10秒程度と小さく、地図利用には全く問題ないが、永年変化では、10年間で10分とか30分とか変化がある。国土地理院の地図でも10年毎に数値の改正が行われている。そのことは我々が持っている2万5千分の1の樽前山・風不死岳・恵庭岳の地図を見ると分かる。平成8年改訂のものと平成20年更新のものと比較してみると西偏角度が8度20分から8度40分に改訂されている。20分西にずれたことになる。約26000年周期でそのように回転していると言われていて、そのため西暦13700年には、指標とされる星が「北極星」からこと座の「ベガ」に取って代わられる時代が来るそうだとんと先の話だが、登山を行う我々にも磁北線を通して、「地球は生きている」と知ることが出来るお話でした。（泉）